TAIWAN　SPEED　FESTIVAL　round 4
参戦報告書

予選　1位
決勝　優勝

■ゼッケン/エントリー名　：　**#5 ／ Synergy Force TRICK STAR JAPAN**
■ライダー　：　浜口　俊之
■監督　：　鶴田 竜二
■開催日　：　10月18日（土）～19日（日）
■サーキット　：PENBAY INTERNATIONAL CIRCUIT ／ 台湾
■マシン　：　カワサキZX-6R
■結果　：　10月18日（土）　予選　　1位 1分46秒650
　　10月19日（日）　決勝　　優勝

Synergy Force TRICK STAR JAPAN 、今年から参戦し始めたTAIWAN　SPEED　FESTIVALも今回の第4戦で、2014年の最終戦を迎えシリーズが終了する。前回・前々回と優勝することが出来たが、まだまだ、更なるSPEEDを求めてマシンセッティングを思考しサーキット入りした。

10月17日（金曜日）　練習走行

天候　：　晴れ
路面　：　ドライ
気温　：　27℃
湿度　：　28％
路面温度　：　53℃

10月半ばでも台湾PICサーキットは気温27℃・湿度28％・路温58℃とコンディションは抜群で、海岸沿いに位置するサーキットには心地よい風が常に吹いている。そんな中、前回TSF第3戦決勝のセッティング・タイヤから練習走行を開始する。走り出して3周目には前回のベストタイムまで1秒に迫る。一度ピットインし前回決勝後のミーティングでマシンセッティングの方向性を確認していたセッティングを施し再スタート。ブレーキングからマシンを倒しこむ時の安心感が増しタイムアップする。NEWタイヤを装着し決勝を見越しての走行を行う。前回ベストタイムより0．5秒上回るタイムを記録する。

10月19日（土）

公式練習　　10:00～10:30
天候　　：晴れ
路面　　：ドライ
気温　　：28℃
湿度　　：24%
路面温度　：48℃

前日にベストタイムを記録したが、タイムアップに伴い新たな問題点が発生した。その問題点の対処、更にその先を見据えて監督鶴田の経験を活かしてのマシンセッティングを施し走行した。
走行後、浜口選手からマシンの状況コメントを聞くと、良くなったと。
午後の予選、30分間の組立てをミーティングする。

公式予選　　14:20～14:50
天候　　：晴れ
路面　　：ドライ
気温　　：28℃
湿度　　：31%
路面温度　：46℃

予選開始前に曇ってきた。予選開始、真っ先にコースインしタイムアタックに入る。2・3・4周目48秒台、4・5周目47秒前半を記録しピットインする。
既に前回のポールタイムを更新しているが、サスペンションセッティングをアジャストし再度コースイン。2・3周目47秒台を記録し6周目に46秒650を記録。前回のポールポジションタイムより1秒以上更新する。
予選結果ポールポジション　1分46秒650

10月19日（日）

フリー走行　9:25～9:40

天候　　：　晴れ
路面　　：　ドライ
気温　　：　28℃
湿度　　：　26％
路面温度　：　41℃

15分間の走行時間を有効に活用し、サスペンションセッティングに合わせエンジンマネージメントでマシンの旋回性が上がるかテストを行う。

走行後の浜口選手コメントから決勝に向けてのセッティングをアジャストする。

決勝　13:30～　18Lap

天候　　：　晴れ
路面　　：　ドライ
気温　　：　28℃
湿度　　：　31％
路面温度　：　57℃

昨日より体感は暑く感じる中、
全車グリッドに着き、綺麗にスタート。

ポールポジションからホールショットで1コーナーに。
セカンドポジションからスタートした何選手がピッタリ背後に着いてくる。47秒台でレースが進行し、3番手の選手が徐々に離されていく。
6周終了時点2位と＋0．2秒。
7周終了時点2位と＋0．8秒。
8周終了時点2位と＋2．0秒
9周目以降、毎ラップ後続を1秒以上引き離して行く。
13周目、2番手走行の何選手がストレートで左足をステップから離して通過。ステップが脱落していた。
ポールポジションから一度も抜かれることなく危なげないレースを展開し後続を大きく引き離し、トップでゴールする。

【ライダー　浜口俊之　コメント】

今回、最終戦ということで良い結果で締めくくりたいと何時もより気合が入っていました。予選までは自分自身で目標タイムを決め、それをクリアし前回までのベストタイムより1秒以上速く走れました。決勝は序盤ペースが上がりませんでしたが、中盤からは後続を引き離し優勝することが出来ました。また今シーズンは1年を通じ台湾TSFシリーズに参戦し、4戦中3勝する事が出来ました。
このような結果を残せたのもSynergy Force Japan様を始めGTA construction様、各スポンサー様、スタッフの皆、台湾のレース関係者様、そして応援して戴いた方々のお陰だと感謝しております。
振り返れば、今年の3月に大先輩の鶴田さんからオファーを戴きましたが、3年近くレースに出ていない・現役より体重が10Kg増えていた事を考えると期待に応えられないと思い悩みました。
しかし、不安より期待に応えたいという気持ちが高まりレース参戦を引受ました。オファーを受けてから今回のレースが終わるまでの生活はレース中心に変え、体調・生活・全てを現役時代と同じ様に変えました。仕事の事を考えると厳しい状況でしたが、人生最後のレースになるかも知れないという考えで取り組み、今は全てが報われた様に感じます。
今年、台湾でレース参戦出来た事に感謝しています。素晴らしいバイクレースの魅力に再び出会えた事、バイクが大好きな仲間に出会えた事、最高な1年になりました。
各スポンサー様、台湾のレース関係者様、スタッフの皆、オファーして戴いた鶴田さん、そして応援して戴いた皆様、誠にありがとう御座いました。

浜口　俊之

【監督　鶴田竜二　コメント】

今回のレースは公式練習からコースレコードを上回るタイムをマークしており、浜口選手の調子はとても良い状態でした。終わってみれば4戦3勝と言う素晴らしい良い結果が得られました。振り返ると今年に入り彼に台湾選手権参戦のオファーをし、それを快く承諾して頂きラッキーでした。
3年ぶりのブランクに事前テスト時は以前との感覚の違いに、かなり戸惑っていたようでした。しかし、レースウィークにはウェイトも10Kg以上落として現役当時に戻してコンディションをしっかり合わせてきたのは流石でした。
過去、アジア選手権のタイトルを6度獲得したチャンピオンのプライドは健在でした。レースウィークを通しても毎回毎朝サーキットで汗だくになりながらウォームアップのジョグを欠かさず、1人黙々と取り組む姿勢にもチームは大きな刺激を受けました。
浜口選手には本当に感謝しております。そしてそんな浜口選手を支えたメカニックやスタッフの頑張りにも頭が下がります。
私自身大好きな台湾でこんな素晴らしいレースをさせて頂けた事にとても嬉しく思っており、チームとしても大きな財産となり価値あるシリーズとなりました。
これもメインスポンサーでありますSynergy Force JAPAN様をはじめGTA construction様、各スポンサー様、ファンの皆様、関係者の皆様、そして私達を温かく迎えてくれた台湾のGAT様はじめ皆様のお陰です。
大変感謝しております。本当にありがとうございました。
今後もこれに甘んじず更に私達のチャレンジを続けて行きたいと思いますので、引き続き応援をよろしくお願い致します。

鶴田　竜二